

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 9章1-18節>
急に話題が変わった？ 否。8章と10章の間にある理由を考えよ！

①パウロは何を言いたいの？ どんな問題が背景にあるのか？

初めてここを読んだとき、「伝道者は自分で働いて無給伝道すべきなのだ」と思いました。しかし、そうではないことは後に聖書全体をちゃんと学んでいく中で分かりました。ここでもパウロはまず、福音の伝道に仕える者がそれによって報酬を得るのは当然だと語っています(6-12a, 13-14, 17a, 18b)。主イエスもマタイ 10:10 で)。また、実際、彼も諸教会からの支えを受けて伝道していたのです(Ⅱコリント 11:7-9, 12:13 参照重要)。よって、コリント伝道で報酬を受けなかったのには理由があったのです。

②偶像に供えられた肉の問題(8章)が、なぜ急に変わったのか？

8章で偶像に供えられた肉を信仰者は食べていいのか、という問題に答えていたパウロが、なぜ急にそれとは関係ないと思われる話題に移ったのでしょうか？ 実は、次の10章でパウロはまた偶像に供えられた肉の問題に戻ります。ですから、パウロは決して思いつきで別の話をしたのではないのです。では、どんなことを考えていたのでしょうか？

③伝道の方法は伝える相手によって違って来て当然、と主張したパウロ。

8章でパウロは、キリスト者になってもまだ信仰を「偶像に供えられた肉は食べてはならない」と律法的に理解していた人たち(弱い人)を責めず、信仰の成長の途上にある人として見つめ、思いやりました(8:9-13)。しかし、彼らを責めた人たちは、パウロが真の伝道者なら当然報酬を受けべきなのに受けないのはおかしいと批判したのです。パウロはそれに対して9章で答えたのです。パウロが一番力を入れて答えた内容は何でしょうか？ それは、「主イエスによる福音を相手に伝えるために、私は何でもする(19-23)。その権利(4, 5, 6, 12, 15, 18)も、その自由(1)も、誰も奪えない。私は福音を伝えるために神様によって召されたのだから(1-2, 16-18)」ということだったのです！

④確信を持って、大胆に、自由に、福音を宣べ伝えよう！

8章とも私たちとも関係ないように思える9章です。しかし、「キリストの救いをどうしても伝えたい」という熱い思いと共に、そこから生まれる自由さ、大胆さが伝わって来るのではないのでしょうか。「信仰は私たちにどのような姿を生み出すか」というテーマが引き続き語られているのです。